

### 3-1. SUV車との衝突による歩行者の損傷分析

#### 背景・目的

近年、SUV車の普及とともに、歩行者事故例も増加している。しかし、ボンネット車やキャブオーバー車で行われてきたような詳細な傷害メカニズムの解析（人体損傷重症度と衝突部位とを対照させた解析）はみられない。そこで、SUV車による歩行者事故について詳細に検討する。まずSUV車によって生じる事故のマクロデータを解析する、次にSUV車との衝突によって傷害を負った歩行者を対象に、損傷の発生メカニズム、重症度を解析し、今後の歩行者保護に有用な情報を見出したい。

#### 概要

- (1) 近年10年間のマクロデータによると、RV（SUV）や1BOXまたはミニバンとの衝突では、ボンネット車との衝突に比べて、小児の占める割合が死亡あるいは重傷事故で有意に高かった。
- (2) 近年15年間のミクロデータでは、解析可能なSUV車と歩行者との衝突事故は13例であった。13人中5人が10歳未満であった。また、歩行者損傷のMAISが2以上であったのは6人であった。
- (3) 上記6人中5人では、車両との衝突による損傷が路面との接触で生じた損傷よりも高い重症度であった。
- (4) 衝突速度が15km/h未満ではMAISが1であったが、速度の増加とともに指数関数的に重症度が上がった。
- (5) 衝突時に車両の前部とまず接触した部の損傷重症度と衝突速度との関係を調べたところ、衝突速度が20km/h以下では接触部のAISが1であったが、25km/h以上ではAISが2または3であった。

#### 今後の課題

- ・ SUV車の加害性について、車両の加害部位の特徴についてさらに明らかにする必要がある。
- ・ 小児に対する加害性を明らかにし、事故予防対策を検討する必要がある